
異次元作り隊 + α が「シンデレラ」をやると、こうなる。

結広 沙羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異次元作り隊 + α が「シンデレラ」をやると、こうなる。

【Nコード】

N2190Y

【作者名】

結広 沙羅

【あらすじ】

異次元作り隊 + α が、シンデレラをやってみました Ⅱ 原作崩壊

（前書き）

《異次元作り隊 + α メンツ》

○異次元作り隊員

・広地 永久

・黒闇 結羅

・HARRISS

○ + α

・龍籠 零兎

《配役》

シンデレラ

龍籠 零兎

王子

HARRISS

○継母

黒闇 結羅

○姉 1・2

広地 永久

HARRISS

○魔法使い

広地 永久

ナ（結羅）：昔々、あるところに……とゆー、めんどくさい前フリはおいといて。

ナ（HARRISS）：シンデレラは今日も、継母達に苛められています。

シンデレラが健気に床磨きをしていると、継母達がやって来ました。

「……ちよつとシンデレラ？ ココ」

継母は、人差し指で窓枠をこすります。

「ホコリが沢山積もってますわよ？（黒笑）」

指先についたホコリを見、シンデレラに笑いかけました。

「すみません……。何？ 何なの！？ 姑がいるっ」

シンデレラが下手に出たのをいいことに、姉達がここぞとばかりにシンデレラに雑用を言いつけます。

「その掃除が終わったら、次は皿洗いよ」

「早くしなさいよね。（クスクス）」

ナ（HARRISS）：あー……。すっげー苛められていますねー。ま、

しーらね。

ナ（結羅）：数日後、突然ですが、舞踏会の招待状が届きました。継母達は大騒ぎです。

【←地出しまくりTIME→】

「シンデレラー、あのドレス、どこだったっけー」

さつきまでの女口調はどこへやら。ドレスの裾をたくしあげ、男臭く城内をドタドタと歩き回っています。

「シンデレラー、僕の髪飾り、壊れちゃったあー（泣）」

こちらの姉は、僕っ娘だった模様。さつきまでのツンツンした態度はどこへやら。シンデレラにすがって泣きじゃくっています。

「えーと、姉さんのドレスはそっちで、髪飾りはあー……」

「舞踏会……めんどくさっ」

吐き捨てるように聞こえた継母の言葉は、スルーすることにする。

ナ（永久）：ちよっ……皆さん！？ 本番中に地出しは、えぬじーですよ！？

いち早く異変に気づいたのは永久さん。

『えぬじー』が日本語発音なのが惜しい。

「「「はーい」」」

「「……チツ」」

ナ（永久）：舌打ちしたの誰だっ！？

「まあまあ、そうイラつくなんて」

男臭い姉が、ナレーションに正論を言う。

「そうですよ。早く進めましょう」

姉に同意な継母さん。

永久さんは気づいていたのだろうか、この二人が舌打ちの犯人だという事に。

ナ（永久）：……っ。んっん！！

えーと、そしてシンデレラは優しいので、継母達の髪をすいてあげたり、ドレスと一緒に選んであげたりしました！（↑半ばヤケ）そして、待ちに待った舞踏会の日。

迎えの馬車に乗り込んだ継母達は、シンデレラに留守番を言いつけます。

「留守番、頼みましたよ？（黒笑）」

継母がシンデレラに満面の笑みを向けます。

「わ、分かりました」

この緊張した雰囲気をぶち壊すように、突如、元気な声がシンデレラにかけられました。

「シンデレラー、行ってくるねー!」

「シンデレラー、ばいばーい!」

馬車から身を乗り出して、ブンブンとシンデレラに手を振っています。

「……う、うん」

当のシンデレラは、若干引ききみ。

ナ（結羅）：継母達の乗った馬車はどんどん遠ざかっていき、見えなくなっていました。

「私も、舞踏会に行きたかったなあ（棒読み）」

嗚呼、なんという事でしょう。

かなり重要なセリフを棒読みするシンデレラ。

「可哀想なシンデレラ。僕が魔法をかけてあげよう」

棒読みで、行きたかったと嘆くシンデレラは、可哀想な分類に入るのだろうか。

ナ（結羅）：魔法使いが勝手に魔法をかけると、シンデレラは素敵なドレス姿に変身しました。

「ありがとう！ 魔法使いさん！」

予想外の事態に、シンデレラは『ラッキー』と連呼しています。
そんなシンデレラに、魔法使いが、ひとり神妙な顔つきになりました。

そして、シンデレラの頬に触れ、見つめました。

「とても……似合って」

「魔法使いさん、行ってきまーす！」

「……あ、ああうん。行ってらっしゃい」

シンデレラ、人の話は最後まで聞こう。

力なく笑った魔法使い。

……ぐっじよぶ。

ナ（結羅）：こうしてシンデレラが会場につくと、王子様と目が合いました。

ナ（永久）：……ええ、そりゃあもう、バッチリと？（↑ヤケ）

しかし、本人は。

「……あの人、ダレだったっけなあ。見たことはある……気がするんだけどなー」

すっかりパニックの模様。

そんなシンデレラに王子がかしづいて、手にキスしました。

「……一緒に踊って頂けませんか？」

ナ（結羅）：シンデレラは勿論……。

「……ごめんなさいっ！ 知らない人についてっちゃダメって言われてるの！」

「「「えーーーーー！？」「」」

えーーーーー！？ つと、失礼。

その場にいる人全員が、アホみたいに口をあけて、シンデレラが走り去るのを見つめていました。

これには王子もビックリ。

ナ（永久）：え、えーっと、シンデレラはその場から逃走。残された王子、残念ーっ！

シンデレラは階段を降りていく……と。

「いたっ！？ ……まあ、いや！」

ナ（結羅）：おーっと、階段の粘着テープによりガラスの靴が脱げたあー！ が、そのまま走る！ どんだけ王子が嫌なんだ、シンデレラっ！

「ヒデエな、オイ」

無駄に愛想のない王子。仮面が取れたようです。

ナ（永久）：いつの間にか王子がきて、彼女の残していったガラスの靴をひろいあげるーっ！

「あ、もう実況いいから。」

ナレーターを一蹴して、愛しいあの人の残していった靴を見つめる王子。

「…………あ。（ニヤリ）…………イイコト思いついちゃった♪」

ニヤリと意味深な笑みを浮かべる王子。
…………変態に見えなくもない。

ナ（結羅）：次の日、国中に御触書が出ました。内容は…………。
『龍籠零兎、見たらすぐに城まで来い。』

ナ（永久）：…………って呼び出し！？ チンピラの呼び出しじゃないのか！？

途中で乱入した永久さんを、物理的に黙らせる結羅さん。
手慣れて見えたのは、気のせいだと思いたい。

ナ（結羅）：…………まあ、素直なシンデレラは、城まで出かけて行きました。

「なんの用ですかー」

「…………ちよつとこい」

ナ（結羅）：うわーキレてるー（棒読み）

ナ（永久）：シンデレラが少し近寄ると、王子はその腕を引き、抱きしめました。…………ってええ！？

「……俺、お前の事……」

次の瞬間、シンデレラが突如、笑い始めました。
原因は……王子。

「俺の事不審者扱いだなんて、いー度胸じゃねーかよー」

これでもかとシンデレラをくすぐる王子。

「きゃははは！ や、やめてえ〜！」

ナ（結羅）：……。

こうしてくすぐり合戦をした二人は、めでたくゴールインしましたときー。

めでたしめでたし♪

良いんでしょうか、こんな終わりで。

永久「よくないよくない！ 僕が零ちゃんをオトすつもりだったのに！」

結羅「まあ、いいじゃないですか」

HARRIS「うんうん。おしまーい」

零兔「……（苦笑）」

『異次元作り隊+α』は、今日も元気に異次元を作り出していましたとさ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2190y/>

異次元作り隊 + α が「シンデレラ」をやると、こうなる。

2011年11月4日21時09分発行